

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年4月号

令和四年四月一日発行 第二十一巻第四号
平成三年九月十八日第三種郵便物認可
通郵第三七〇号（毎月一回）日発行



裏白

高橋将夫

つ
い
口
が
す
べ
っ
て
し
ま
ふ
と
ろ
ろ
汁

熱
爛
や
っ
つ
い
反
対
の
こ
と
を
言
ふ

恋
を
し
て
消
え
て
し
ま
つ
た
雪
達
磨

冬
の
蚊
の
熱
き
血
潮
の
記
憶
か
な

心にも無いことを言ふ冬の蝶
鮫鰯の心を知れば吊せない
ずわい蟹の鋏は愛を断ち切れず
冬の日を膝に抱へて木のベンチ
寒卵落してわれぬ宇宙船
虎穴には入らずに生きて去年今年
裏白の誠は裏にありにけり

日月抄

高橋将夫 推薦

一月の淀川息をしてをらず

出利葉孝

つ
つ
し
み
て
吾
に
挨
拶
初
鏡

阪倉孝子

青銅の裸体に恋す冬薔薇

三木亨

初春やうはさ満載宝船

久保夢女

人生をアップデートす初苗

中
西
厚
子

もういいよの声だけれど去年今年

阿部さちよ

信貴山の寅に会ひたる年始め

中
貞
子

納豆の糸ひかりり雪の朝

井上 静子

炭なれど竹の面影確とあり

竹村 淳

初日の出生駒山からおめでたう

高野 昌代

去年今年万事加齢で片が付き

時 澤 藍

地の息吹身にまとひくる鍬始

柴 田 靖子

葉牡丹や月日の色を渦にして

山 田 佳子

花嫁のヴェールふはりと風花す

安 野 眞澄

蒔きもせず耕しもせず春隣

三 浦 純子

日なたぼこ忘却といふ処方箋

星 野 昭子

山芋やれば蓮根くれし大晦日

孫 野 秀子

槐集

高橋将夫選

一月の淀川息をしてをらず
大寒や藁葺屋根が蹲る

大阪 出利葉 孝

冬ざるる飛鳥は古代に眠りけり
破魔弓に驕れる心射貫かれし
田遊びに久留米緋の腰軽き
大太鼓一打こころに年明くる
若水の光すくひて心すむ
つつしみて吾に挨拶初鏡
人日へ踏み出す一步迷ひなし
寒林を透けくる空の深さかな
化粧して黒点一つなき初日
湯気玉となつてタオルへ子の初湯
独楽と独楽ぶつけて競ふ自尊心
青銅の裸体に恋す冬薔薇
枯野駆く芭蕉の夢を追ってみる

枚方 阪介 孝子

守口 三木 亨

泣く笑ふ恋の道化に冬の虹

竹原 久保 夢女

罪と罰鴉にくれてぼたん雪

誰彼の記憶のかけら風花す

初春やうはさ満載宝船

井の中の蛙ぐらしよ芹なづな

去年今年時の流れについて行く

雑踏や趣きのある冬の雲

人生をアップデートす初茜

冬の月波間に泳ぎ打ち寄せる

哀しみにぴたりと着地する冬日

君がいていいねと思う初山河

もういいよの声なけれど去年今年

行く末は風花のごと仄明かれ

初雪や流転の末の変異株

冬の駅再会誓ふグータッチ

和泉 阿部さちよ

守口 中西 厚子